ロコモティブシンドローム

運動器疾患とロコモティブシンドローム

NTT東日本関東病院 大江 隆史

KEY WORDS
●ロコモティブシンドローム
●骨粗鬆症
●変形性関節症
●変形性脊椎症
●脊柱管狭窄症

はじめに

日本整形外科学会では，2013年からロコモティブシンドローム（以下，ロコモ）の概念図を図１のように整理して公表している。この概念図において，一番左に示されているのが，ロコモの原因となる主な運動器疾患である。ここではこの概念図の根拠になった資料や研究について紹介する。

Ⅰ．要介護の原因に関する資料

介護が必要となった原因疾患として，運動器疾患の割合は年々増加し，厚生労働省の2016年の統計では骨折，関節疾患，脊髄損傷で約25％も占める（図２）。

Ⅱ．運動器コホートによる研究

高齢者でのcommon diseaseである骨粗鬆症，変形性膝関節症，変形性腰椎症はその有病率がきわめて高いことがYoshimuraらにより報告されている[1]（図３）。40歳以上の有病者数を推計すると，骨粗鬆症が1,070万人，変形性膝関節症が2,530万人，変形性腰椎症が3,790万人となる。同報告によればこれらの併存率も高く，70歳代女性の約30％，80歳以上の男性の約10％，80歳以上の女性では約40％で３つが併存する（図４）。

脊柱管狭窄症の診断にはMRI撮影が欠かせないが，大規模住民コホートでMRIを用いた研究がIshimotoらによって行われた[2]。それによると40歳以上の腰部脊柱管狭窄症罹患率は男性10％，女性約９％である。ここから推測される腰部脊柱管狭窄症の患者数を計算すると，約610万人となる。

Locomotive organ diseases and locomotive syndrome.

Takashi Ohe（院長補佐，手術部長，整形外科主任医長）

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.